

兵庫県産の植物図 (9) ヤマモモ科・クルミ科・ニレ科

矢内 正弘*

Masahiro YANAI: Illustrations of plants in Hyogo Prefecture (9)
(Myricaceae, Juglandaceae and Ulmaceae)

はじめに

「兵庫の植物」(兵庫県植物誌研究会)19号までに既に8回、県内の植物図を發表してきた。今回は未發表の植物図を上3科について報告する。学名や和名は福岡ほか(2001)によった。それぞれの種について植物図を描いた標本の産地、標本番号、採集年月日、主な特徴などを記載した。ただし絶滅危惧植物については詳しい産地は省略し、図は40倍の実体顕微鏡を使用して描いたが、一部は作業の繁雑さをさけるため複写機でコピーを使用した。スケールは実線は1mm、点線は1cm、破線は10cmを示す。図は生植物か標本を使用した。作図に使用した標本は頌栄短期大学か兵庫県立人と自然の博物館に納められている。ほとんどのものは県内のものであるがよい標本が無いときは他府県のものを使用している。多数の標本を管理されている頌栄短大の福岡誠行先生(現在は退職)、黒崎史平先生、その仕事をお手伝いされている塩谷佳世子さん、またそれらの標本を寄贈された多くの研究者に感謝いたします。

ヤマモモ科Myricaceae

図1, ヤマモモ *Myrica rubra* Sieb. et Zucc. ♂株: 佐用郡上月町秋里 April 11 2007 MY44572. ♂株: 姫路市姫山公園, 栽培, April 15 2007 MY44573. ♀株: 姫路市姫山公園, 栽培, April 15 2007 MY44574. 果実: 姫路市大塩 栽培 June 25 2007 MY44753. 県内では北緯35°以南に生育する常緑性高木。南部、特に海岸近くにたくさん自生する。また公園などによく栽培もされている。葉のへりは少し波打つ程度だが、若枝に出る葉は往々、鋸歯が出る(A)。姫山公園では雄株が多かった。雄花序は長さ2~4cm。苞に数個の雄花が含まれる。雄しべは1mm。雌花序は数mmで10個ほどの雌花が集まる。数枚の苞に包まれ、雌花も2mm。果実は赤く熟す。果柄は5~15mm, 径12mmほどの果実となる。表面は粒状で味が酸っぱく食べられる。中に長さ7mmの種子が含まれる。わずかに凹凸が見られ短毛が生えている。

* 〒670-0811 姫路市野里大日町345-2

クルミ科Juglandaceae

図2, オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura 花: 城崎郡日高町阿瀬溪谷500malt. April 24 2004 MY & A. Matsunaga 42694. 果実: 養父郡八鹿町石原200~600m Aug. 23 1998 MY29324. 山地に入る付近の谷間などに多い。枝を大きく広げ、サワグルミのように直立しない。枝は太い。開葉の時期には星状毛がたくさん見られる。花は葉よりも少し遅れて展開する。雄花序は長さ10~15cm, 多数ぶら下がる。1個の苞には10個以上の雄しべをつける。葯は先端付近に短毛が見られる(A)。花糸はない。雌花序は立ち上がり短く、2~4cm。雌花は5~10個集まる。赤い柱頭が目立つ。子房は短毛が多い。果序は20cmと長くぶら下がる。果実は長さ4cm, 表面には茶褐色の短毛が多い。

図3, ノグルミ *Platycarya strobilacea* Sieb. et Zucc. 佐用郡上月町久崎 100~200malt. June 24 1995 MY23354. 飾磨郡家島町松島 Aug. 29 1992 MY13908. 深山よりも里山の道ばたなどにたくさん見られる。県内でもごく普通に広く分布する。葉裏には葉腋に短毛がある。雄花序は立つ。10本程度あり、長さ約10cm, 柄は1~1.5cm, 短く茶褐色の短毛が多い。花序の軸や苞にも短毛が見られる。雄花は軸に直接ついたり苞の下部に8~10個つく。花糸はごく短い。雌花序は長さ1~2cmの短い柄が見られ、3cm。雌花は2mm, 柱頭は2に分かれる。果序は楕円形, 長さ3cm, 茶褐色。果実は幅6mm, 長さ4mm, 柱頭は残存する。平たく、翼がある。苞は果実となると硬くなり線形, 褐色となる。長さ15mmほど。果実の枯れたものは翌年までも残る。

図4, サワグルミ *Pterocarya rhoifolia* Sieb. et Zucc. 美方郡温泉町畑ヶ平高原 800malt. July 5 2000 MY H. Ono34692. ♀花: 養父郡大屋町横行 N. Kurosaki & H. Imai1536. ♂花: 美方郡美方町秋岡 April 21 1978N. Fukuoka9576. 深山の谷間などに直立することが多い。樹高30mにもなる。秋には40cmにもなる長い果序が下がっているのを見る。花は雄花序、雌花序ともに枝先に新葉とともに下垂する。雄

花序は3～5cm。先端が3に分かれた鱗片と先端部分にやや長い苞が1個見られる。鱗片には短毛が多い。雄しべは7本、葯も花糸も無毛。雌花序は7～10cm。軸には鱗片と短毛が見られる。雌花は3mmばかりあり、苞は外側には短毛が多い。小苞は2あり、無毛。将来、翼に發育する。花被は4に深く切れ込む。果序は30～40cmと長く垂れ下がる。1個の果実は翼も含めて2cm。

図5, **カンボウフウ** *Pterocarya stenoptera* C. DC. 果実：加西市古法華寺 July 8 1995 MY23251。花：姫路市花田町高木橋, 河川敷き April 5 2003 MY41535。別名シナサワグルミ。もともと公園などに植えられたものだが, 河川敷きにはよく広がっている。筆者は市川, 武庫川, 千種川などでも見た。中でも市川の河川敷きでは樹高15m, 胸高直径40cmにもなり枝も大きく広げている。橋本(1995)には栽培されている, と記載しているが, 本県では相当以前から野生化していると考えられる。福岡ほか(2001)には自生地3カ所が示されている。この種は生活力が強く今後も自然界で広がりそう。春, 新芽とともに花序が出る。雌雄の花序が混在している。雄花序は垂れる。雌花序は立ち上がる。雌花序がややおくれる。ともに2～5cm, 軸や花柄には星状毛や鱗片状の毛などがたくさん見られる。雄花は苞の裏側に葯がつく。雄しべの花糸はごくわずかでほとんど葯が直接つくように見える。苞は長さ3mm, 先端が3に分かれる。10本の雄しべが見られる。雌花は2mm。大きい濃い色の苞が1, やや丸い苞が2, 雌しべを取り囲むように4枚の小さい苞がある。この小さい苞の2枚が果実になると羽根になっていく。種子は7mmあり, 縦に溝がある。紅谷(1971)にはカンボウフウの記載はないので見落とししたか, 目録出版後に野生化したと思われる。

ニレ科Ulmaceae

図6, **エゾエノキ** *Celtis jessoensis* Koidz. 美方郡美方町久須部溪谷 June 1 1999 MY&H. Ono31441。但馬などの深山に分布。葉の鋸歯は上部3/4ほどに出ること, 果柄は2～3cmと長く, 熟すと黒変することなどからエノキと区別できる。**エノキ** *Celtis sinensis* Persoon 花：姫路市花田町 April 14 2007 MY30539。果実：揖保郡新宮町時重 June 10 1990 MY8158。県内では川原, 里山などにごく普通の高木。葉の鋸歯は上部のみに出る。花序は雄花がほとんどでまれに雌花または両性花が見られる。また花柄は5mm。果実は赤く熟し球形, 径5mm, 食べられる。中に1個の種子を含む。種子は網目模様が見られる。

図7, **ケヤキ** *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino 芽ばえA図：姫路市南山田 April 25 2005。花序：

宍粟郡山崎町岩上神社 May 5 1995 MY22891。果実：養父郡関宮町大久保, 布滝 Aug. 1 2001MY&H. Ono39114。県内では公園や自然界に普通の落葉高木。開葉時, 托葉は赤く, 4～8mmで早く落下する。花序は枝の基部に雄花をつけ, 先端部に雌花をつける。果実はほぼ球形, 柱頭が残存し, 4mm, 紋模様が見られる。**ハルニレ** *Ulmus davidiana* Planch. *japonica* var. (Rehder) Nakai 宍粟郡波賀町赤西 May 4 1994 MY19263。開葉前に開花する。開葉と同時に1cmを越す托葉はやや色がうすい。果実や花については資料が少なくはっきりしない。**オヒョウ** *Ulmus laciniata* (Trautv.) Mayr 養父郡大屋町若杉 May 19 1998 MY27130。県内では前者とともに深山に生育する高木。少ない。花や果実のよい標本はない。葉の形が特殊で他のニレ科植物と区別できる。

図8, **ムクノキ** *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch. 花：姫路市姫山公園 May 3 1995 MY22879。果実：城崎郡日高町上郷 円山川河川敷 July 6 1999 MY&H. Ono31298。県内では普通に生育する落葉高木。新葉が出ると同時に開花する。雄花序は新枝の基部付近に多数つく。雌花序は新枝の先端に数個つく。雄花の花被片は5裂し中央に短毛が見られる。雄しべ5。雌花は数個の花被片がある。果実は秋に熟す。球形, 径1cm。黒く熟すと食べられる。表面には微小な毛がまばらに生える。中央に7mmの種子が入っている。**アキニレ** *Ulmus parvifolia* Jacquin 花：姫路市保城 Sept. 23 1992 MY13976。果実：加西市長町 Nov. 10 1990 MY10047。県内ではごく普通の落葉樹。秋に開花する。花は両性花。枝に数個ずつつく。花序の基部には茶褐色の鱗片が数枚ある。花被片は4個。雄しべ4, 中央の雌しべは柱頭は2に分かれる。果実になっても花被片や花糸は残存する。果実は10mmを少し超える。中に4mmの平たい種子を含む。

文献

紅谷進二編. 1971. 兵庫県植物目録. 六月社書房.
福岡誠行, 黒崎史平, 高橋晃 編. 2001. 兵庫県産維管束植物2. 人と自然の博物館, 11: 85-104.
橋本光政. 1995. 兵庫県の樹木誌. 兵庫県農林水産部.
矢内正弘. 2009. 兵庫県産の植物図(8). 兵庫の植物, 19号



図1 ヤマモモ

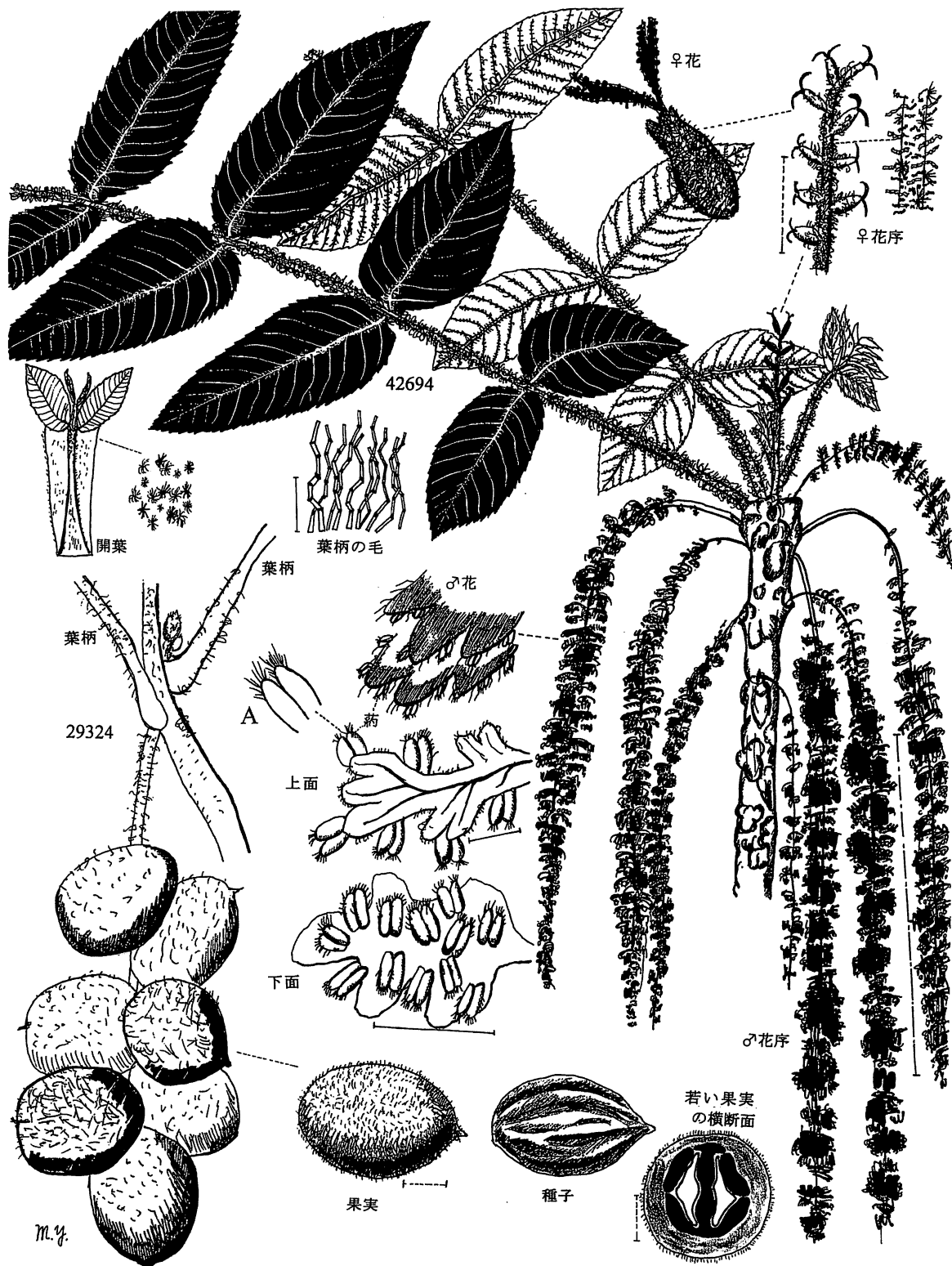


図2 オニグルミ



図3 ノグルミ

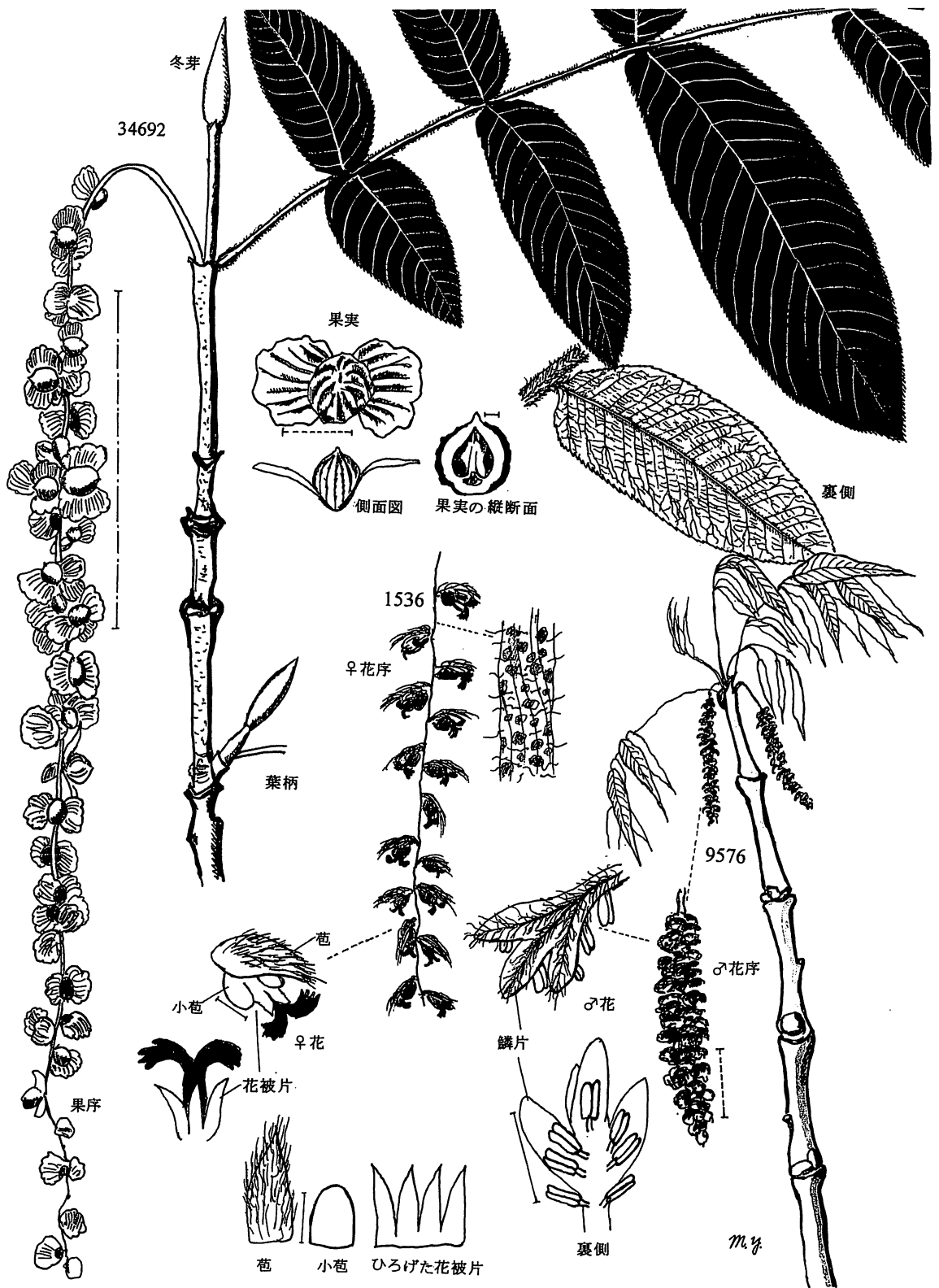


図4 サワグルミ

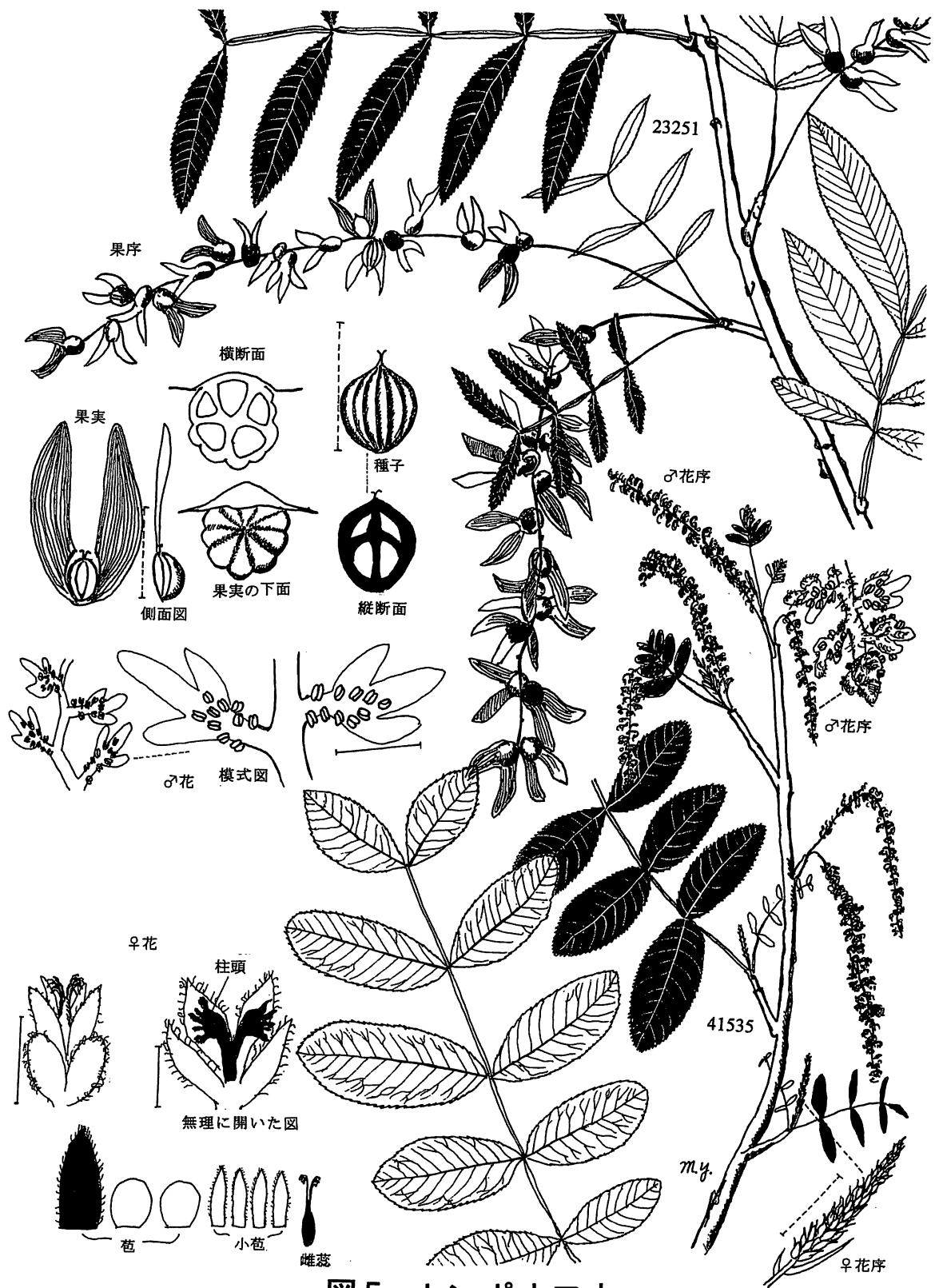


図5 カンポウフウ

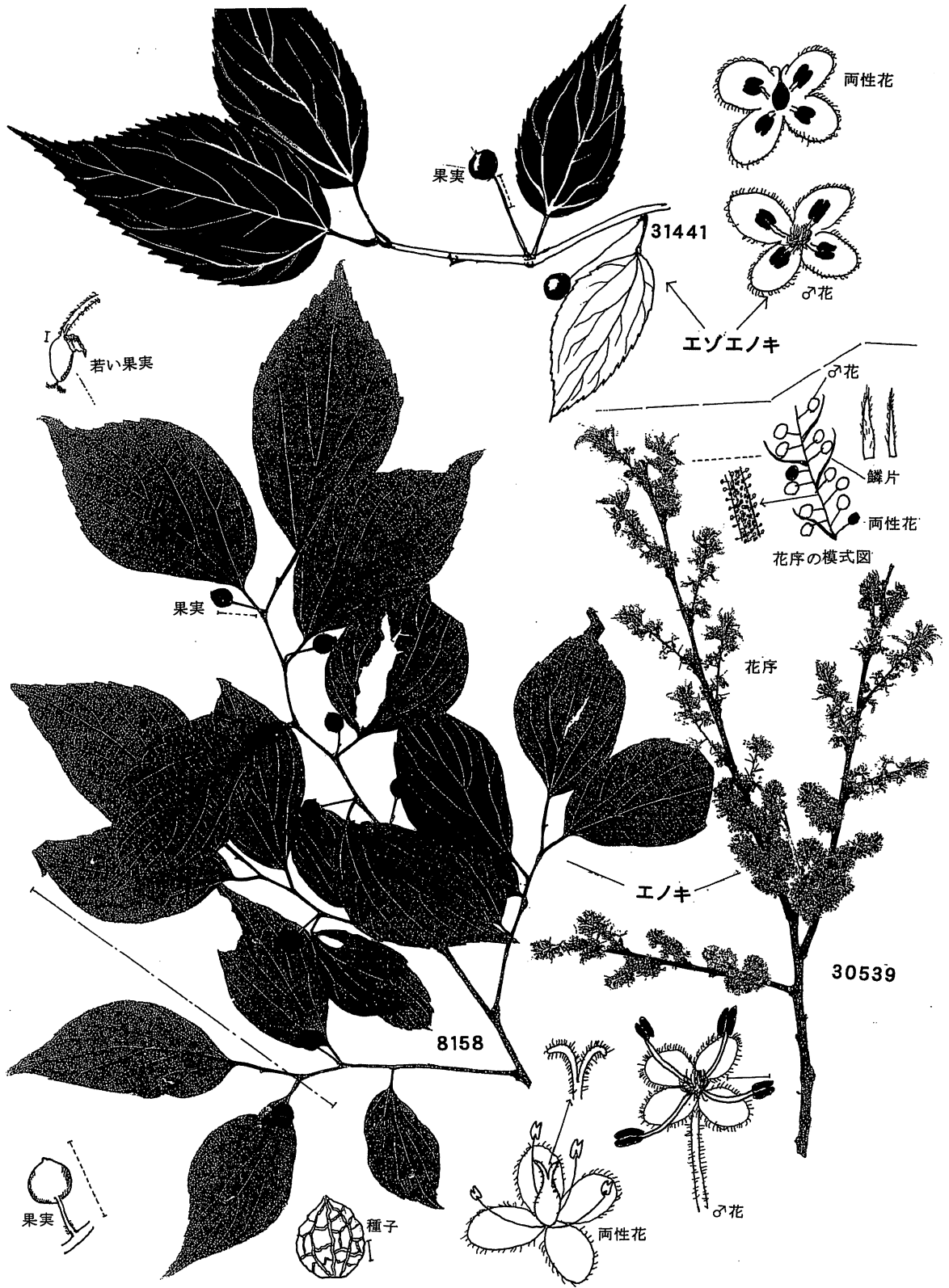


図6 エゾエノキ エノキ

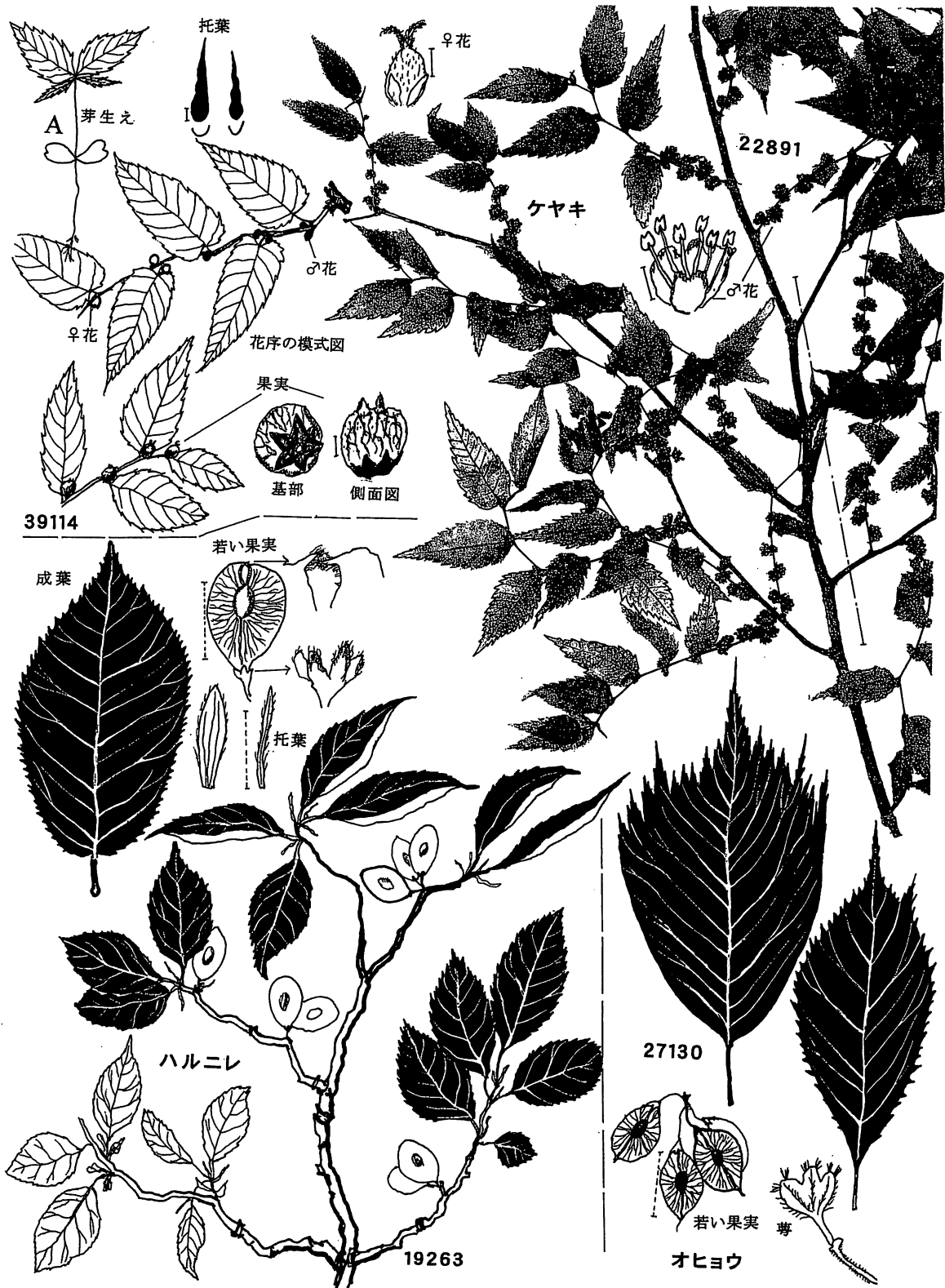


図7 ケヤキ ハルニレ オヒョウ



図8 ムクノキ アキニレ